

はじめに

新型コロナは患者数の波を繰り返してきました。マスクや3密回避などが定着し、ワクチン接種も進んでいますが、波を乗り越えていけるのも我々一人一人の力です。引き続きがんばりましょう



東京から見た富士山に沈む夕日

糖尿病と遺伝

糖尿病の問診では、血縁者に糖尿病の人がいるかどうか（家族歴）を聞くことが多いです。それは糖尿病の病型の診断に役立つからです。例えばミトコンドリア糖尿病という稀なタイプは母方から遺伝するという特徴があります。その他にも特定の遺伝子異常による糖尿病はいくつか知られていますが、濃厚な家族歴が診断の鍵になります。

一方、割合が多い2型糖尿病ですが、こちらも家族歴を有することがしばしばあります。2型糖尿病はインスリン分泌やインスリンの効きやすさに関わる複数の遺伝因子を背景に、加齢や過食・運動不足・肥満などの環境因子が加わって発症します。家族歴を有する人は、今は健康でも将来糖尿病を発症する可能性があると考えて、早いうちから生活習慣に気をつけたり、健康診断を受けて早期発見に繋げるなどの対策も重要です。

また、1型糖尿病はインスリンを出す膵臓のβ細胞が壊されて発症するタイプの糖尿病であり、家族歴を有することは2型糖尿病より少ないと言われています。しかし免疫に関与するHLAという遺伝因子が関与することが知られており、当院の前院長中西幸二先生はその分野の研究でも功績を上げられております。

糖尿病の検査 <血糖値>

今回は基本に立ち返って、「血糖値」について知っておいていただきたいことを書いてみました。

血糖値とは血液中のブドウ糖（グルコース）の濃度です。空腹時血糖値とは10時間以上食事をしない状態で測定された血糖値を指します。それ以外の時間は随時血糖値といいますが、一般的に食事の1～2時間後に最も高くなります。採血時に直前の食事の時間を確認するのは、検査結果の血糖値を評価するのに必要だからです。一般的に良好といえる血糖値は空腹時では130mg/dL未満、食後2時間では180mg/dL未満が目安です。また「朝食前の血糖値が寝る前より高いときがあるのはなぜか」という質問をされることがありますが、睡眠中は血糖を上げるホルモンのはたらきなどにより、肝臓からブドウ糖を放出する「糖新生」という現象が起こっていることも一因です。

糖尿病の薬の話 <イメグリミン>

2型糖尿病の薬に新たな仲間が加わりました。これまでの内服薬にはインスリン分泌を促す薬やインスリンを効きやすくする薬等がありましたが、今回登場した「イメグリミン」という内服薬は、細胞中のミトコンドリアという部分にはたらい、インスリン分泌と効きやすさの両方を改善すると言われています。一石二鳥のように聞こえるお薬ですが、血糖値を下げる力としてはこれまでの経口薬と同等程度のようなようです。単独では低血糖のリスクは少なく、目立った副作用も報告されていないので、安全性は高い薬と考えられます。

イメグリミンは世界に先駆けて日本で発売されました。まだまだデータが少ないので2型糖尿病治療のどの段階で使うのが一番いいのか、どういう患者さんに適しているのか、など詳しいことが明らかになっていくのはこれからです。現時点では従来薬との組み合わせで、次の一手の選択肢の一つに加えた形で、必要に応じてご提案していきたいと思っております。